

健康的に長生きしたい。

＼おかげさまで新病院移転10周年を迎えます！

令和6年度 | 第1回市民病院公開講座

いつまでも私らしく

人生100年時代の フレイル予防

※フレイルとは？
年齢を重ね心と体の働きが弱くなってきた
健康と介護の間の状態をいいます。



2024 **7.13** 土

予約制 | 定員 100名

参加無料

1階 健康イベント 12:30-13:50

脳年齢測定・骨密度測定・体組成測定
健康相談・介護相談・ACP | 人生会議

2階講堂 講演会 14:00-16:00



フレイルって何？

稲沢市民病院
| 老年内科 部長
ひろせ たかひさ
廣瀬 貴久 医師



フレイル予防体操

稲沢市民病院
| 認知症看護認定看護師
たなか みつえ
田中 三津枝 看護師

稲沢市民病院 2階講堂

12:30-16:00

(12:30-13:50 までイベントあり)

特別講演

人生100年時代のフレイル予防

老年医学、高齢者糖尿病、認知症を専門分野とし、高齢化社会における日本の社会で、全人的な高齢者医療の実践、老年医学の進歩のための研究、地域における高齢者医療のリーダーとなる人材の育成などを行っている。

梅垣 宏行 ひろゆき
教授 名古屋大学大学院医学系研究科
地域在宅医療学・老年科学(老年内科)



＼稲沢市民病院／

病院 News.

inazawa municipal hospital news

vol. 85
2024.June

認知症を知らう

知るから始まる
認知症ケア



高齢化社会と切っても切り離せない『認知症』
住み慣れた環境での暮らしを大切にしながら毎日を送れるように・・・。
稲沢市民病院は、『認知ケアチーム』を中心に地域で認知症ケアに取り組んでいます。
まずは、一人一人が知ることから始めませんか？

予約制

① ホームページからのお申し込み
<https://www.inazawa-hospital.jp/>



② 院内に配置してある用紙にてお申し込み

③ お電話でのお申し込み

0587-32-2111
(稲沢市民病院管理課)

稲沢市民病院ニュース

発行日 令和6年6月18日

発行部数 600部

発行元 稲沢市民病院広報委員会

電話 0587-32-2111

Fax 0587-32-2151

E-mail hospital@city.inazawa.aichi.jp

広報誌バックナンバー



認知症を知ろう

稲沢市民病院は、高齢化社会と切っても切り離せない「認知症のケア」に積極的に取り組んでいます。



老年内科の診察の様子

認知症×支援

認知症ケアでは、いかに認知症の患者さんへの理解を深めることができるかが重要です。

認知症の方に現れる症状として、大きく分けて

□ 精神症状（不安、焦燥、妄想など）

□ 行動症状（徘徊、多動、暴言暴力など）

がありますが、これらは全ての認知症の患者さんに同じように見られるものではなく、生活環境や周囲の対応の仕方などで現れ方が変化します。このような症状を出現させないために

いつ・どこで・どんな時に症状が現れるのかを認知症の患者さんごとに理解し、対応を考えていく必要があるのです。そのため認知症ケアチームは、認知症看護認定看護師を中心とした看護師をはじめ、老年内科医師、社会福祉士、リハビリスタッフ、薬剤師など多職種のスタッフが参加し、協働することで、各専門分野の視点で認知症症状の進行を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられるようにチームが中心となり院内全体で認知症ケアに取り組んでいます。



毎週木曜日の認知症ケアチームのラウンド



院内デイではさまざまなレクリエーションを開催

認知症×生活

患者さんにとって、治療や療養のための入院生活は必要なものです。その一方で、普段の生活とリズムが違うことによりストレスが生じやすく、夜間の不眠や情緒の不安定、一時的な認知障害を招く原因になることがあります。入院生活の中で、ほんの数時間でもベッドを離れ、治療を忘れて穏やかな入院生活を過ごしていただくために、日中の時間を利用し、スタッフにより企画されたさまざまな行事、催しもの（体操、ゲーム、貼り絵、工作など）に患者さんが参加することを「院内デイ」と称します。いわゆるデイサービスの院内版といえるものです。当院では、入院患者さんを対象に週1回1時間程、院内デイケアを開催しています。スタッフだけでなく、患者さん同士の交流を通して楽しみながらリハビリできる環境の提供をしています。

認知症×睡眠

当院の地域包括ケア病棟と転倒骨折センターでは、入院患者さんの眠りを可視化しています。睡眠において、夜間（特に1時～5時くらいの間）しっかりと寝られているかどうか重要なポイントです。その時間帯に覚醒してしまったり、夜間せん妄を起こしてしまったりすると、治療の妨げになったり、日中への活動状況に影響を及ぼします。そこで、多職種からなる『認知症サポートチーム』では睡眠の状態をモニタリングしながら、日中の生活状況への助言や必要に応じて薬剤の変更・調整などを行っています。

体動センサー付きベッドでモニタリングしたデータを元に眠りの質の向上に努めています。



モニタリングしている眠りの記録で睡眠の質を検討中

認知症看護認定看護師

-田中看護師が一番大切にしていること-

超高齢化社会において認知症の専門的な知識を持つ認知症看護認定看護師の需要は高まっています。認知症の患者さんの対応で、現場のスタッフや患者さんのご家族が、対応に困っているケースは珍しくありません。

そんなときに認知症看護認定看護師はその患者さんにとって適切なケアと一緒に考える存在として活躍します。

当院の認知症看護認定看護師である田中看護師は、実際に患者さん自身が現場のスタッフやご家族の対応に混乱して、怒ってしまったり、お互いの思いが通じ合わず、困り果ててしまうケースがあります。そんな場面で田中さんが、患者さんに話しかけると患者さんが笑顔になり、穏やかにお話されることが何度かありました。何か魔法の言葉でもあるのでしょうか？

田中さんは言います。「魔法の言葉がけなんてありません。私が一番大切にしていることは、患者さん自身のことを想う気持ち。本人の思いを尊重することです。認知症だから、という先入観を持たず一人の人間として向き合います。その方を尊重して、その方自身の視点や立場を想像して理解しようとしています。これからも生まれ育った稲沢の土地で地域に密着した認知症のケアに更に取り組んでいきたいと思っています。『認知症外来』の担当もしていますので、ぜひお困りの際はご相談ください。」